

伊王島の海 のぞいたら「海藻少ない」



大学生（右）に助言をもらいながら水中探査ロボットを組み立てる子どもたち
＝長崎市、アイランドナガサキ

長崎総科大生らが指導

小中学生 水中探査ロボット製作に挑戦

長崎市伊王島町で8日、関心を持ってもらうことを目的に、長崎総合科学大との組み立て教室があり、地元の子どもたちがカメラの映像を通じて身近な海の探検をした。

この日は、塩ビパイプや風呂用のポンプなどを使ったROVを製作した。同大の松岡和彦准教授がROVの役割などを説明。子どもたちは同大学生や同大付属高生徒から助言を受けながら、自分で形や小型カメラ

の取り付け位置を考え、4種類のROVを完成させた。

完成後は実際に海中に沈めて、映像で観察。地元の漁師による藻場の維持と回復の取り組みについての話もあり、熱心に耳を傾けていた。伊王島中2年の森山美怜さん(14)は「海中を観察して海藻が少ないことなどがよく分かった。漁師さんの活動で藻場が増え、さまざまな魚が来てほしいと思った」と話した。

松岡准教授は「小さいころから海に興味を持つことで将来的に海洋県の長崎を支える人材も出てきてほしい」と期待した。

(熊本陽平)